

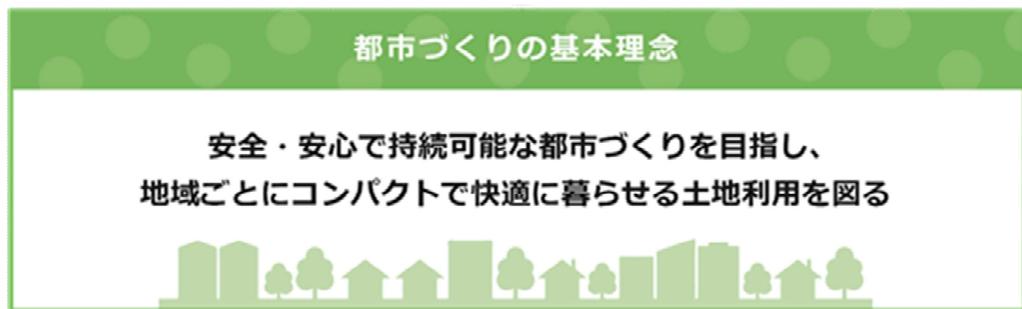
## 第4章. 都市づくりに関する基本的な方針



### 4. 1 都市づくりの基本理念と基本目標

#### (1) 都市づくりの基本理念

都市づくりの基本理念は、下関市都市計画マスタープランに掲げる基本理念である『安全・安心で持続可能な都市づくりを目指し、地域ごとにコンパクトで快適に暮らせる土地利用を図る』を本計画でも引き続き継承し、この基本理念のもと、都市づくりの課題の解決に取り組んでいきます。



#### (2) 都市づくりの基本目標

##### 目標1. 誰もが便利で安心して生活できる都市構造の構築

都市拠点では、高次都市機能の集積を図り、市民生活や経済活動に対する広域的で質の高い都市的サービスを提供するとともに、地域拠点や地域拠点（田園住宅型）では、市民の日常生活を支える都市機能を集積し、市民にとって暮らしやすい生活圏の形成を図ります。

また、これらの拠点周辺では、各地域の自然や歴史等の地域特性を活かし、観光や交流のための魅力ある拠点を形成するとともに、公共交通ネットワークにより強固に連携し、誰もが便利で安心して生活できる都市構造の構築を図ります。

##### 目標2. 持続可能な都市づくりの推進

都市機能や居住機能等の集積・抑制を図り、地域の性格に応じた適正な土地利用を推進します。

また、都市機能の配置・誘導にあたっては、既存ストックの有効活用により、人口減少下においても、将来にわたり持続可能な都市づくりを推進します。

##### 目標3. 安全・安心に暮らせる都市づくりの推進

近年、全国各地で頻発・激甚化する自然災害に対し、防災まちづくりの観点から、対策を講じる必要があります。

本計画では、居住誘導区域・都市機能誘導区域の災害リスクをできる限り回避、低減するために防災指針を定め、居住の安全確保などの防災・減災対策の取組を推進します。

また、良好な居住環境の維持・形成に向けて、生活関連施設の維持管理・整備を図るとともに、子どもや高齢者等にやさしい、安心して暮らせる都市づくりを推進します。

## 4. 2 将来都市構造

### (1) 基本的な考え方

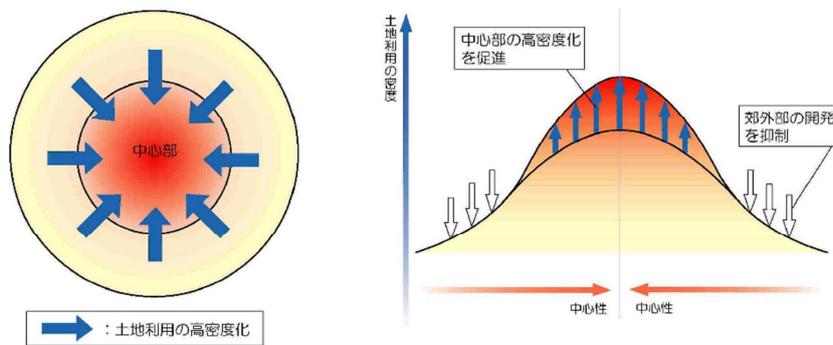
都市づくりの基本理念、基本目標の実現に向けて、都市全体として、都市拠点・地域拠点・地域拠点（田園住宅型）ごとに、拠点の性格に応じて都市機能、生活関連機能の配置・集積を行うとともに、それらの拠点間において、効果的に機能分担・連携を図りながら、土地利用密度、生活活動密度を高める集約型都市づくりを推進します。

都市拠点では、広域的に必要な高次都市機能について、相互に連携しつつ、都市機能の集積を図ります。また、地域拠点では、商業・業務等の生活利便性を高める機能の配置及び居住機能を確保し、他の拠点と連携した拠点形成を図ります。また、地域拠点（田園住宅型）では、身近な生活のよりどころとなる商業・業務等の生活関連機能の配置を行います。

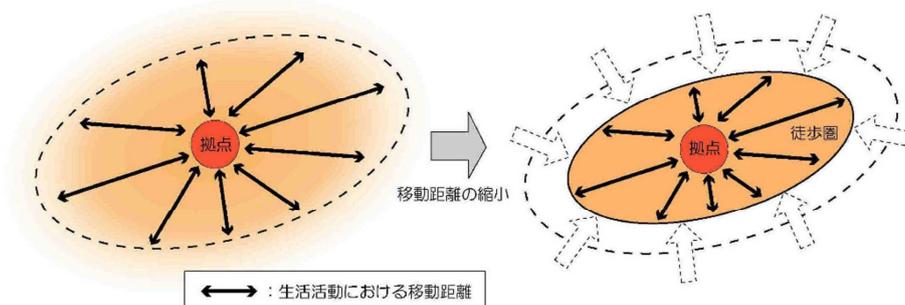
居住誘導の視点からは、各拠点周辺や交通利便性の高い幹線道路沿道へも居住機能の誘導を図るなど、日常生活を営む上で、便利で快適に生活できる地域への居住誘導を図り、人口密度を高める集約型都市づくりを推進します。

上記で示す各種機能を集積した拠点について、これらの拠点間を結ぶ公共交通の利便性の維持・向上を図ることにより、日常生活圏内において不足する機能等を相互に補完・連携しながら、都市全体として活力ある地域集約型都市の形成を目指します。また、地域集約型都市の形成を推進するにあたっては、これまで整備してきた都市基盤や公有財産等の既存ストックの有効活用を図り、拠点周辺等における土地利用密度を高めることに留意します。

#### ■土地利用の密度を高める都市づくりのイメージ



#### ■生活活動の密度を高める都市づくりのイメージ



資料：山口県都市計画基本方針改訂版(平成 27 年 10 月)

## (2) 拠点連携型の都市構造の必要性

本市は、1市4町の合併によって現在の市域が形成されているなどの歴史的なまちの成り立ちを踏まえる必要があります。

また、今後の人口減少・高齢化の進行において、地域に差が出てくることが考えられ、暮らしやすく、安全・安心な生活環境を確保するためには、既存の都市基盤が整った場を十分に活かして、暮らし、経済、自然環境の持続を図ることが極めて重要です。そのため、都市機能を拠点に集約し、拠点同士や拠点と地域を道路や公共交通のネットワークでつなぐことで、地域の生活利便性を高めるとともに、都市と自然との共生を図る「拠点連携型の都市構造」の構築を図ります。

## (3) 「拠点連携型の都市構造」の基本的な考え方

### ○拠点地区への都市機能の集約化

- ・広範な市域の中で、市民の暮らしを支える各種生活サービスの確保、効率的な市街地形成を図るため、人口規模や都市機能の集積状況に応じた各都市機能を誘導するとともに、拠点内やその周辺に居住を誘導します。

### ○周辺都市、都市と地域をつなぐ連携軸の形成

- ・周辺都市との交流、都市と地域との交流の増進、拠点間における都市サービスの補完を図るため、道路や公共交通によるネットワーク化を図ります。

### ○地域特性に対応したライフスタイルを提供するゾーンの形成

- ・まちなか、市街地、田園・山間集落など、各地域が持つ資源や既存ストックを十分に活かした土地利用の誘導などによって、都市と自然とのバランスを維持し、魅力あるライフスタイルが展開されるような快適な居住環境の形成を図ります。

#### (4) 将来都市構造

先述までの考え方を踏まえ、都市と自然との共生を図りながら、市民の安全で暮らしやすい生活を支え、多様な交流や活力を生み出し、都市の魅力を高めるための将来都市構造の構築を目指します。

##### 【都市拠点】

- 中核的な都市の拠点として、買回り品や文化・芸術鑑賞など、高次で広域的な都市サービスを提供し、都市拠点において、相互に連携・補完を図ります。
- 下関市街地の都市拠点では、広域的に都市間・地域間を連携する拠点として、既存の都市機能を活かしながら、本市の顔となる高次で広域的な都市機能の集積を図ります。具体的には、ウォーターフロント開発を進め、商業・業務、観光、教育文化などの多面的な機能が集積する市街地形成を図ります。
- 新下関駅周辺の都市拠点では、都市間の機能分担で求められる商業・業務・教育等の複合機能を有する高次都市機能の集積のほか、市域全域から求められる高次都市機能の集積を図ります。

##### 【地域拠点】

- 人口が集積している下関都市計画区域における市民生活を支えるための拠点として、最寄り品や日常医療など、都市拠点との役割分担を図りながら都市拠点を補完し、都市近郊に位置する市民が日常生活を営むための生活関連サービスを提供します。
- 地域拠点に不足する都市機能は、都市拠点までの公共交通機関のサービス水準を維持することにより、享受できるようにします。

##### 【地域拠点（田園住宅型）】

- 市北部地域における市民生活や様々な活動等を支える生活の拠点として、生活関連サービスを提供します。
- 高次都市機能や日常生活サービス機能を享受するため、都市拠点や地域拠点まで公共交通機関により容易にアクセスが可能となるよう、サービス水準の維持を図ります。

##### 【集落拠点】

- 身近な地域における日常生活サービスの維持、誘導を図ります。
- 市内の地域拠点や都市拠点、市外と連携軸を形成できるよう交通動線を確保します。
- 集落拠点のまちづくりの方向性等については、下関市土地管理構想（豊田・豊北地域）で示してまいります。

##### 下関市土地管理構想（豊田地域・豊北地域）

- 下関市都市計画マスタープランの一部として策定。
- 都市計画区域外である豊田地域、豊北地域の土地を農地・森林・集落に区分した上で、それぞれの土地利用や管理の方針、まちづくりの方向性等を示すもの。

■ 将来都市構造図

